

# 指導と評価の工夫で 生徒に学びの深まりを実感させる



## ポイント ① ゴールから授業を設計する

社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」です。この目標を達成するために、日々の授業を課題解決的な学習に改善していくことが求められています。

社会科の特性として、どうしても学習内容の教授が中心になる傾向があります。しかし、育成すべき資質・能力から学習内容を構成し、適切な問い（学習課題）でつなぐことができれば、日々の授業を課題解決的な学習に改善できると考えます。

＜取組の手順（例）＞

- ① 育成すべき資質・能力を書き出し、単元のまとめの例を作成する。
- ② 生徒が単元のまとめを表現できるような学習活動や学習課題等を逆算して設定する。
- ③ 単元を通して追究したくなるような単元を貫く問いを設定する。

## ポイント ② 評価する時期や場面を精選する

単元の指導計画において、「評定に用いる評価（○）」と「学習改善につなげる評価（●）」を区別して位置付け、単元の途中で「学習改善につなげる評価」を行い、適切に指導することが、これまで以上に大切になってきています。また、「学習改善につなげる評価」は、下表のような評価場面に限らず、適宜実施し、生徒にフィードバックして資質・能力の育成を図ることが大切です。そのため、評価する時期や場面を精選し、適切に指導していくことに重点を置く必要があります。

氏名	観点\次	単元の導入	第一次	第二次	第三次	第四次	単元のまとめ	単元の観点別評価
国研太郎	知・技		●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%		A～C
	思・判・表		●	●	●	●	○100%	A～C
	主体的態度	●		●			○100%	A～C

（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）より作成）

＜取組の手順（例）＞

- ① 「評定に用いる評価」と「学習改善につなげる評価」を用いた単元の指導計画を作成する。
- ② 単元の学習過程に、生徒が学習状況の改善を図る機会を設定し、適切な指導を行う。

## ポイント ③ 「学びの地図」の活用を図る

「学びの地図」は、生徒の思考を可視化し、生徒自身が学習調整を行う際に、極めて大きな役割を果たすことが期待できます。また、教師が「評定に用いる評価」や「学習改善につなげる評価」を行う際の評価資料としても大きな価値があります。そのため、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、単元の始めに見通しを立てることや、単元の学習を振り返る時間をしっかり確保することが大切になります。そうすることで、単元末で次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容から、生徒に学びの深まりを実感させることができると考えます。

（注）ここでは、「参考資料」P90にある「単元を見通して学び、振り返るワークシートの例」を「学びの地図」と呼ぶ。

＜取組の手順（例）＞

- ① 観点別学習状況の評価するため、「学びの地図」を見取る方法を工夫する。
- ② 「学びの地図」を用いて、観点ごとの評価の総括を行う。



# 3学年

## 「個人の尊重と日本国憲法」

### C(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

#### 社会科実践事例

「日本国憲法は、今の私たちの生活にどのように関わっているのか」という単元を貫く問いを設定し、「学びの地図」を活用して課題解決的な学習に取り組んだ。



**ポイント 1**

#### 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。</li> <li>民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。</li> <li>日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。</li> <li>日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</li> </ul>

小単元の学習課題を逆向きに設計し、単元を貫く問いをどう設定するかが工夫のしどころです。

#### 指導と評価の計画（第三次のみ抜粋・全14時間）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第三次 3時間	<b>【第三次の問い】</b> 人々の平和への願いは、日本国憲法にどのように生かされるべきなのか。				<b>ポイント 1</b>
	10 日本の平和主義 ・生徒のもつ平和観を確認する。 （平和だと思うときをカードに記入） ・日本国憲法が示している平和主義について理解する。 ・日本の平和主義を他国と比較し、特徴をまとめる。	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>●憲法条文から、日本の平和主義の特徴を整理している。（ワークシート）</li> <li>●他国の憲法と日本の憲法を比較し、日本の平和主義の特徴をまとめている。（ワークシート・学びの地図）</li> </ul>
	11 日本の平和と防衛の課題 ・日本が置かれている状況について、日米安全保障条約や沖縄の基地問題を踏まえて理解する。	○			○日米安全保障条約、集団的自衛権、沖縄の基地問題について理解している。（ワークシート）
	12 平和主義のこれから【本時】 ・現代社会の政治的課題に意欲的に取り組み、社会的見方・考え方を働かせ、課題解決を図る。 ・これからの日本の平和の在り方を、日本国憲法ができた経緯や国際情勢と照らし合わせて、社会科的な見方・考え方を働かせて意見をまとめる。		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の平和主義との向き合い方を、意欲的に考えようとしている。（観察・ワークシート）</li> <li>●これからの日本の平和の在り方を、日本国憲法誕生の経緯や国際情勢を踏まえて考えている。（学びの地図）</li> </ul> <b>ポイント 2</b>

**重要!**

「主体的に学習に取り組む態度」においても、観点の重点化を図り、その見取りと適切な指導を一体的に進めましょう。

**ポイント 3**

#### 授業改善のポイント

- 生徒が“単元を貫く問いに対する疑問点”を学習前に整理する  
単元を貫く問いの解決を図る授業を通して、学ぶ価値や必要性を認識することができる。また、学習後の自分の考えの変化に気づき、学習意欲の向上につながる。
- 「学びの地図」の2つの効果  
「学びの地図」を活用した学習評価は、生徒には理解が曖昧な部分や認識が誤っている部分の学習調整を促し、教師には適切な指導を行う上での資料となる。

